

# 忘れ物 怒

よう、窓際から離れたところがいいでしょう。黒板の周囲には物を置かず、気が散らないように。少しずつ課題に取り組める工夫や心遣いが大切です。

## 褒めて成功体験に

家庭では、忘れ物などを怒ることは避け、具体的で簡潔に注意したり、指示したりして、褒めることで自信を持たせていきます。例えば、本を出しっぱなしの時は「この本は本棚のこの場所にしまおうね」と具体的に指示し、出来た時は「よくできたね!」としっかりと褒めます。褒める場面が増えることが「成功体験」となります。

く、大人になってから気づかれることがあります。

どんな特性かという、▽ぼーっとしていることがよくあり、すぐに気が散る、気が変わる▽授業に集中できず、おしゃべりしたり、あくびばかりしたりする。結果として成績が低迷する▽日常生活に支障があるほど忘れ物が多い▽宿題に何時間もかかり、提出できない▽片付けができない——などです。

こうした特性は専門外来を受診すれば改善する手段があり、日常生活も楽しい方に向かっていけます。

学齢期であれば、学校の環境をできるだけ刺激が少なく、集中できるようにすることです。座る席は風景に気をとられない



行ってきまーす!

あっ 帽子わすれた!



行ってきまーす!

あっ ランドセル忘れた!



保育園や幼稚園、小学校に通うくらいの年齢の子どもは、あちこち動き回ったり、色々なものに興味を持って手を出したりするなど、じっとしていないことがよくあります。保護者にとっては夏休みが終わり、子どもの集団生活が再び始まる時期は何かと気がかりですね。

発達障害の一つである「注意欠陥・多動性障害(ADHD)」の概念が広く知られる現在、活発な自分の子どもを見て「ひょっとしてADHDでは?」と悩んでしまうかもしれません。しかし色々な事象に興味を持つことは成長期によく見られ、心配ないことがほとんどです。

ADHDの特性は、年齢に不釣り合いな不注意や多動性、衝動性です。誰にでもありそうなことですが、その程度が「日常生活に支障をきたす」という点が特徴です。

## 受診で改善の手段

「多動性」は成長とともに落ち着いていきますが、「不注意」は子どもの頃は見逃されやす

## 子どもに聞かせる音楽会

来月2日、京都

NPO法人日本子守唄協会(東京)は9月2日午後1時半〜3時、京都市中京区の市立京都堀川音楽高校で、0歳児から参加できる音楽イベント「伝えてほしい こもりうた・わらべうた〜未来の子どもたちに」を開く。

宗教学者の山折哲雄さんと、同協会理事長の西館好子さんが

## 山折さんら講演も

「未来への言いつて」をテーマに講演。続いてプロの歌手らが「秋の子」などの童謡や京都のわらべうたを披露する。

先着3000人。入場料は一般2000円、高校生以下無料。8月30日までに同協会に電話(03・6458・0288)か、ホームページ(<https://www.komoriuta.jp/>)から申し込む。

# くらし 家庭

◇「ある10人のこども」(社会福祉法人大阪誠昭会著、パレード、1430円) 大阪で

長年乳幼児教育や保育に携わる法人の著作。国が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として挙げる「自立心」「協同性」など10項目を、現場の目線で育児中の親にもわかりやすく解説している。監修は四国大学短期大学部の中村真理子教授。



絶賛成長中!!